

特集

1965年の回顧と展望

写真説明は次ページにあります

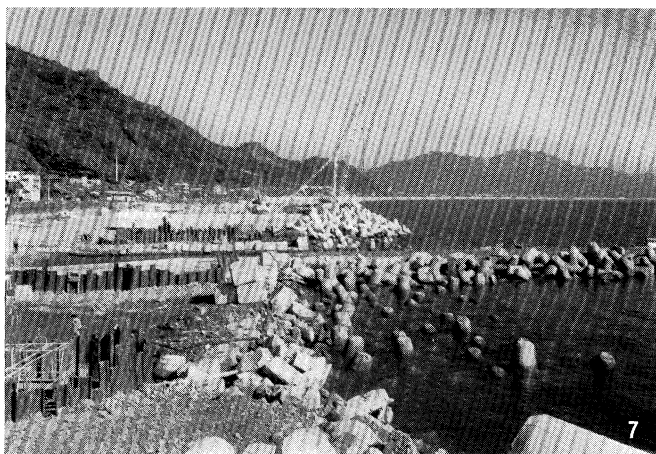


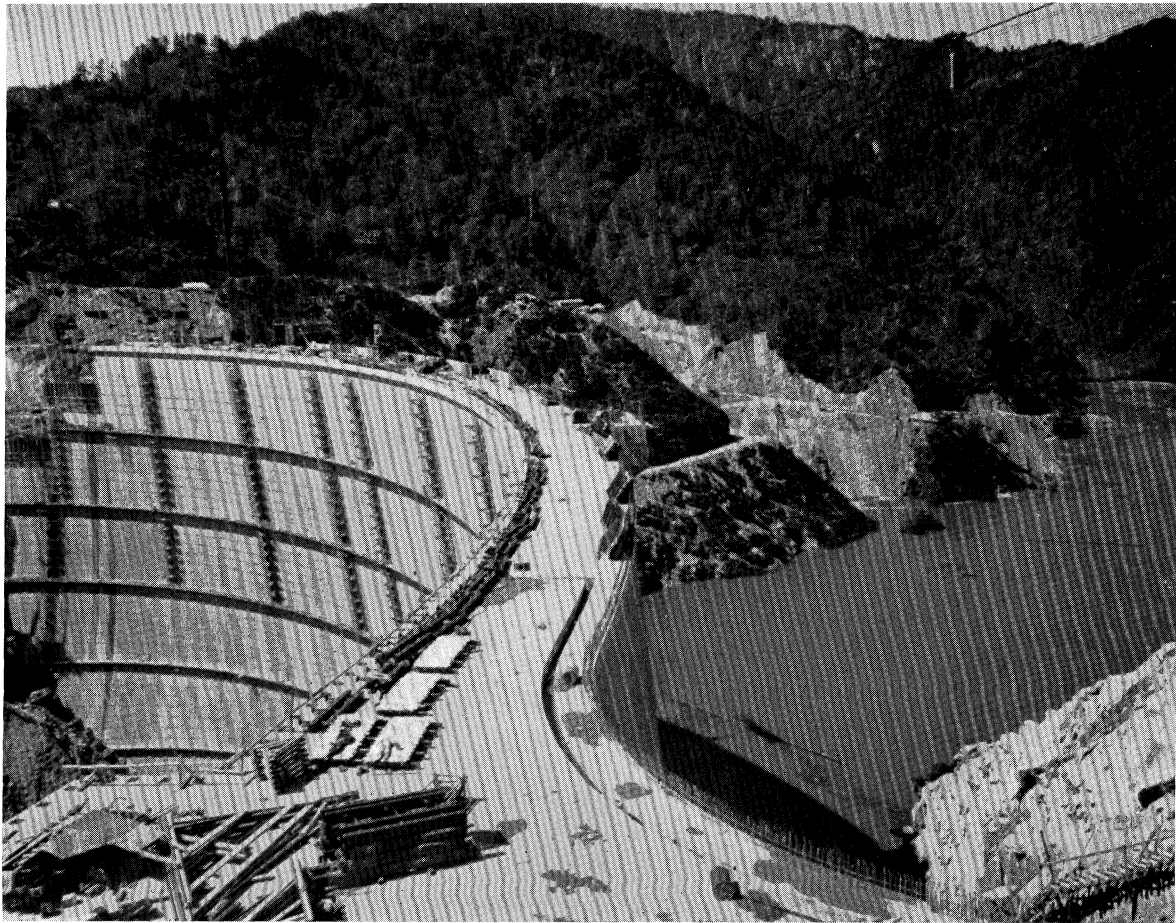
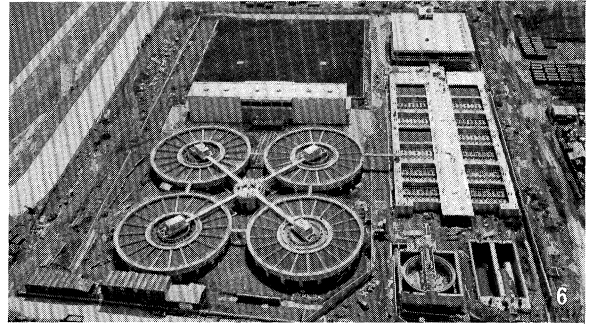


〈回顧と展望〉のページが生まれてから早くも3年の才月がたち、ここに〈1965年の回顧と展望〉と題して第4回目をおとどけすることとなった。部門別け、その内容等まだまだ不十分ではあるが、われわれの生活の場を一年という区切りの中でふりかえり、明年への糧とされることをおすすめしたい。写真の細かい説明は本文を参照されたい。

写真説明

- 1 完成した太田川放水路分岐点
- 2 東海道本線・矢作川橋梁（PC）
- 3 東京港品川埠頭近景
- 4 建設すすむ朝霞浄水場
（写真 東京都水道局提供・7月2日写す）
- 5 消火栓からほとぼしる“水”に喜ぶピエンチャン市民
- 6 東京都江東地区工業用水道南砂町管理事務所（写真 東京都水道局提供）
- 7 由比海岸工事近況（10月26日写す）
- 8 薩摩トンネル西坑口工事近況
（10月26日写す）
- 9 たん水を開始した矢木沢ダム
（9月19日写す）





全径間吊橋模型 実験用低風速 風洞完成

風の影響が大きな要因となる、橋梁、建築物、煙突、タワー等の構造物の設計に際し、全体模型実験設備の必要が望まれていたが、このほど東京大学土木工学科の中に1億円余の予算をかけた写真にみられるような立派な設備が完成された。

この風洞はいわゆるゲッチンゲン型（環流式）で、鉄筋コンクリートづくりの建屋そのものが風洞殻をなし、その風向方向の長さは26 m、幅員は本体16 m、模型格納部で32 mあり、吹出口寸法は幅16 m×高さ1.9 m、風速1~17 m/sec（連続設定）、風向上下10度（連続設定）等である。

送風機関係では100 Kwのオイルモーター駆動送風機4台を並列し、風量8~120 m³/sec、最大回転数は450 r.p.mとなっている。また測定部の諸施設としては、天びん用レール、実験用エレベーター、模型昇降台、天井走行クレーン等があり、静的空気力を測定するための天びんは、最新の六分力天びんと三分力天びんの2種が備えられている。この他、吹出部の寸法が幅0.7 m、高さ1.8 m、最大風速24 m/secの空気弾性試験風洞が併設されている。本施設は、現在同学科の所属施設であるが、将来はさらに広汎な利用も期待されるであろうとのことである。

